リンク元

# ２つの美術部の思い出など

美術部　木下　隆一

高校時代は美術教室に飾られている油絵を見ても上手いなあと思うだけで特に惹かれることはなく、美術部入部も考えなかった。

それより美術の授業でデザイン科目のポスター制作を通じ、グラッフィクデザインの横尾忠則、亀倉雄作等の宣伝美術を知り、興味を持ったが、才能の世界だとすぐ諦めた。

大学生になって和歌山で寮生活を４年間過ごしたが、美術の教科書にあった印象派をもっと見てみたいと画集を買うなど、絵画への関心があったので絵画部に入部した。

当時は抽象美術、現代美術の全盛期で、現在もある月刊「美術手帳」が部の定期購読書で、それには奇をてらった難解な文章の現代美術評論が多く、わざとらしくて嫌であった。

今日ではその記述の面影もないが・・

部員の多くも抽象傾向で、私も最初は画集で抽象模様を描くパウル・クレーを知りそれに近い絵を描いたりして、抽象画を部展、県展に出品していた。

１００号大なので安く仕上げるため、張りキャンバスは使わずベニヤ板を木枠で囲い、水張りした紙を貼り水性ペイント：ネオカラー（ポスターカラーと同等で缶入り）で制作。展覧会前の徹夜制作、屋台のラーメンが懐かしい。

現在では抽象画の反動から具象絵画が主流を占め、最近では一見写真と見違えるリアリズム具象絵画も注目を集めているが、展覧会で写真を拡大しただけの絵を見る毎に、かつての抽象画の如くはかなく消え去るのではないかと残念に思っている。本物だけは生き残ると信じているけれども。

本社転勤で会社に美術部があることを知り、油絵をはじめた。今度は具象画。

月２回ぐらい本社食堂での例会があり、千葉 伊豆の漁港、長野 安曇野のスケッチ場所を合宿で数多く訪れた。

また転勤先の愛知県碧南市では港湾、運河、通船、漁船等をよく描いた。

８号～２０号ぐらい

退職後、念願であった絵画研究所に入り、現在は自宅から３０分以内の四谷（桃園学園)、駒込（示現会)、西日暮里（太平洋美術会）にある３か所を、月変わりで通っている。

週３日教室があり、２週間計５、６回で一人の人物画を仕上げる。

大きさは５０号で描いている。

風景画を描くのもいいと思うが、画材道具を持って場所探しに何時間もかかり、現場への移動時間等も考えると、アトリエを持たない私にとっては研究所という決められた場所に行くだけでモデルが居てくれて、一定のペースで制作できる、現在の人物画教室の方が便利で、今のところ満足している。

プロのレベルに到達すればもっと満足で、目標は日展入選！　思えばもう半世紀もの間油絵が好きで描き続けている。

作品説明

構成Ａ

抽象画としての作品。

もはやデザイン的なものになっている。

ポスターカラーで彩色。

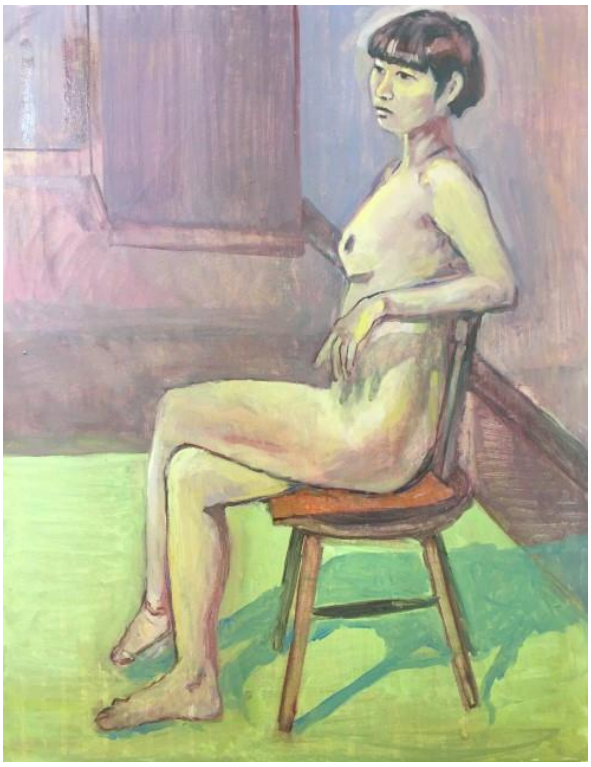
大浜漁港

碧南市で作成

１０号

漁港の雰囲気が偲ばれる

裸婦



四谷桃園学園絵画研究所にて

２０２１年５月作

背景処理が難しいところ。